

接着系アンカー(有機系・回転型・ガラス管式)

認証取得者	日本デコラックス株式会社	
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町柏森前屋敷 10	
連絡先	Tel:0587-93-2411 Fax:0587-91-1070	
商品名	ケミカルアンカー・RX (-N) タイプ	
接着剤の材質	変性ビニルステル樹脂	
認証種類	タイプ B	
認証番号	第 19-0013 号	
認証有効期間	2020年1月27日~2025年1月26日	

別添資料

【カプセル容器の形状、寸法、許容差】

品番	カプセル径 [mm]	カプセル長 [mm]	カプセルの容量 [g] (内容量及び許容差)	アンカー筋	ドリル径 [mm]		穿孔深さ [mm]	
					径	許容差	穿孔深さ	許容差
RX-10EN	10.5±0.5	80±3.0	11.5 (6.7~7.3)	D10	12.0	-0 ~+0.4*	80	-0~+3.0
RX-12EN	13.0±0.5	85±3.0	18.0 (10.9~11.9)	D13	15.0		105	
RX-12THN	13.0±0.5	150±5.0	32.2 (20.5~22.5)	D13	16.0		170	
RX-16EN	16.5±0.5	100±5.0	35.9 (23.5~25.8)	D16	20.0		130	
RX-16TN	16.5±0.5	120±5.0	43.0 (28.0~30.8)	D16	20.0		180	
RX-16THN	16.5±0.5	140±5.0	50.2 (33.0~36.3)	D16	20.0		210	
RX-19EN	20.5±0.5	120±5.0	67.3 (44.9~49.3)	D19	24.0	-0 ~+0.4*	160	-0~+5.0
RX-19TN	20.5±0.5	150±5.0	83.8 (56.6~62.2)	D19	24.0		210	
RX-19THN	20.5±0.5	170±5.0	95.0 (64.2~70.6)	D19	24.0		250	
RX-22EN	24.5±0.5	130±5.0	102 (71.4~78.5)	D22	28.0	180		
RX-22TN	24.5±0.5	170±5.0	134 (94.9~104.3)	D22	28.0	245		
RX-22THN	24.5±0.5	190±5.0	149 (104.0~114.4)	D22	28.0	290		
RX-25TN	28.5±0.5	170±5.0	175 (124.8~137.2)	D25	32.0	280		
RX-25THN	28.5±0.5	200±5.0	205 (145.0~159.5)	D25	32.0	330		

\*: 市販のドリルの公差とする。

【アンカー筋の強度】

1. アンカー筋の規格降伏点、引張強さ、伸び率

材質記号	規格番号	規格降伏点 N/mm <sup>2</sup>	引張強さ N/mm <sup>2</sup>	伸び率 %		
				棒鋼の呼び名		
				D10	D13~D22	D25
SD295A	JIS G3112	295 以上	440~600	16 以上		
SD345	JIS G3112	345~440	490 以上		18 以上	19 以上

2. アンカー筋の適用範囲

製品仕様			試験に用いた仕様	
種類	材質	サイズ	材質	サイズ
異形棒鋼	SD295A	D10~D25	SD295A	D10
	SD345	D13~D25	SD345	D13~D25

接着系アンカー(有機系・回転型・ガラス管式)

認証内容

構成部品	項目 1	カプセル容器	材質	ガラス					
			形状	別添資料による。					
			寸法及び許容差	別添資料による。					
			製品重量及び許容差	別添資料による。					
	項目 2	接着剤関連	材質	主材	変性ビニルエステル樹脂	硬化材	過酸化ベンゾイルと無機充填材の混合物	骨材	天然珪砂
			強度	$\tau_{fu} \geq 10 \sqrt{\sigma_B / 21}$ (N/mm <sup>2</sup> ) に対して、95%以上の信頼性を有している。 [記号] $\tau_{fu}$ : 付着強度計算値 (N/mm <sup>2</sup> )、 $\sigma_B$ : 母材コンクリートの圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )					
項目 3	接着剤関連	物性	圧縮強さ	98.0N/mm <sup>2</sup> 以上		引張り強さ	19.6 N/mm <sup>2</sup> 以上		
			曲げ強さ	29.4N/mm <sup>2</sup> 以上		圧縮弾性係数	980 N/mm <sup>2</sup> 以上		
			耐アルカリ性	質量変化率が±10%以内					
項目 4	アンカー筋関連	種類	異形棒鋼 (JIS G3112) の種類と呼び名 (径) は別添資料による。						
		先端形状	片面 45 度斜めカットしたものであること。						
		外観	1) 油、きりかすなど異物が表面に付着していないなど、アンカー筋表面に定着を阻害するものがないこと。 2) ナットを嵌合する部分のねじが損傷していないこと。						
項目 5	アンカー筋関連	材質	異形棒鋼: SD295A: D10 SD345 : D13, D16, D19, D22, D25						
		表面処理	アンカー筋に防食が必要な場合は、表面処理を施す。 表面処理は、原則としてクロームめっき、亜鉛めっきとする。						
項目 6	アンカー筋関連	強度	降伏点・引張り強さ・伸び率		別添資料による。				
		ねじ等級	8g もしくは 3 級またはそれ以上の等級とする。						
製品	項目 7	ドリルの種類	ハンマードリルとする。						
		ドリル径および許容差	ドリル呼び径: -0~+0.4mm とする。						
	項目 8	穿孔深さと許容差	穿孔径が 20mm 以下: -0~+3mm, 20mm を超えるもの: -0~+5mm とする。						
	項目 9	母材の種類	普通コンクリートとする。						
	項目 10	設計基準強度の範囲	18 N/mm <sup>2</sup> 以上、36 N/mm <sup>2</sup> 以下。						
	項目 11	環境条件 (固着後)	外気温 -5°C 以上、80°C 以下とする。						
	項目 12	引張耐力算定式	破壊形式に応じて適用する式 (1) から式 (3) に対して 95%以上の信頼性を有している。 $T_{oc} = 0.23 \sqrt{\sigma_B \cdot A_c}$ …式 (1)、 $T_{cb} = \tau_a \cdot \pi \cdot d_a \cdot \ell_e$ …式 (2)、 $T_{tu} = \sigma_u \cdot a_0$ …式 (3) [記号] $T_{oc}$ : コーン破壊したアンカーの引張耐力計算値 (N) $\sigma_B$ : 母材コンクリートの圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> ) $A_c$ : コーン状破壊面の有効水平投影面積 (mm <sup>2</sup> ) ( $= \pi \cdot \ell_e \cdot (\ell_e + d_a)$ ) $T_{cb}$ : 付着破壊したアンカーの引張耐力計算値 (N) $\tau_a$ : 付着強度 (N/mm <sup>2</sup> ) で、次式による。 ( $= 10 \sqrt{\sigma_B / 21}$ ) $\ell_e$ : アンカー筋の有効埋込み長さ (mm) ( $= L - d_a$ ) $L$ : アンカー筋の埋込み長さ (mm)、 $d_a$ : アンカー筋の外径 (mm) $T_{tu}$ : アンカー筋が破断したアンカーの引張耐力計算値 (N) $\sigma_u$ : アンカー筋の素材の材料強度 (N/mm <sup>2</sup> ) ( $= 1.1 \sigma_y$ ) $\sigma_y$ : アンカー筋の規格降伏点 (N/mm <sup>2</sup> ) $a_0$ : アンカー筋の最小断面積 (mm <sup>2</sup> )						
	項目 13	引張剛性	あと施工アンカーの引張剛性が、下記の条件を 95%以上の信頼性を持って満足している。 $\min. \{ 2/3 \cdot T_{my}, 0.4 T_{oc}, 0.4 T_{cb} \}$ 時における軸方向の変位量 $\delta$ が、0.3 mm 以下 $\min. \{ T_{my}, 0.6 T_{oc}, 0.6 T_{cb} \}$ 時における軸方向の変位量 $\delta$ が、1.0 mm 以下 [記号] $T_{my}$ : アンカー筋の降伏引張耐力 ( $= \sigma_y \cdot a_0$ )						
	項目 14	せん断耐力算定式	次式に対して、95%以上の信頼性を有している。 $Q_{mc} \geq 0.4 \sqrt{E_c \cdot \sigma_B} \cdot s_a a_0$ ただし、 $500 \leq \sqrt{E_c \cdot \sigma_B} \leq 900$ (N/mm <sup>2</sup> ) $Q_{tu} \geq (\sigma_u / \sqrt{3}) \cdot s_a a_0$ [記号] $Q_{mc}$ : 母材コンクリートの支圧破壊により定まるあと施工アンカーのせん断耐力計算値 (N) $E_c$ : 母材コンクリートのヤング係数 (N/mm <sup>2</sup> ) $\sigma_B$ : 母材コンクリートの圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> ) $s_a a_0$ : アンカー筋の最小断面積 (mm <sup>2</sup> ) $Q_{tu}$ : アンカー筋のせん断破壊により定まるせん断耐力計算値 (N) $\sigma_u$ : アンカー筋の素材の規格引張り強さ (N/mm <sup>2</sup> )						
	項目 15	せん断剛性	0.6 $Q_{mc}$ 時又は 0.6 $Q_{tu}$ 時における水平変位量が 5mm 以下又は 0.3 $d$ ( $d$ : アンカー筋の呼び名) 以下であることに対して、95%以上の信頼性を持って満足している。						

[注] 項目 1~15 は、評価認証審査項目を示す。